

守屋留学生交流協会奨学生の記

知っているようで知らない 韓国の伝統文化

韓国は日本と近接しており、昔から文化・経済・政治などあらゆる面での交流が活発に行われてきた。ことに、最近では韓流ブームの影響で韓国に対する関心が高まっている。

ここでは韓国の民俗的な祝祭日である 설(ソル:お正月)と 추석(チュソク:お盆)を中心に韓国の伝統文化を紹介する。

お正月 - 日本はお雑煮、韓国は？

韓国の伝統行事は、中国で使われてきた暦法を踏襲してきたので陰暦によって行われている。したがって、お正月の行事も西暦の1月1日ではなく、陰暦で行う家庭がほとんどである。国で決めている休日でも西暦の場合は元旦当日のみであるが、旧暦の場合は3日間である。

お正月は韓国語で 설(ソル)という。설(ソル)は新しい年を迎える最初の日をさす。ソルの語源に関しては様々な説があるが、最も有力な説として < 설다・낯설다(ソルダ・ナッソルダ) : 見慣れない、面識のない > などの < 설(ソル) > という言葉から定着したというものが挙げられる。見慣れないという意味から新しく出発するという意味が発生したと考えられる。いつから < ソル > という言葉が使用されてきたかは明確ではないが、新羅時代から民間で広く使われていたと推測される。

ソルには長男の家に親戚が集まるので、その前日と後日には民族大移動が起こり、高速道路の渋滞が酷くなる。

当日は朝早くから祖先に捧げる料理を用意し、



떡국(トックッ)

차례(チャレ:茶礼-陰暦の元旦や秋夕に行う簡単な祭祀)の儀式を行う。元々人が死んだ日には、冥福を祈るという意味で、毎年命日の夜遅く 제사(ゼサ:祭

祀)を行うが、ソルとチュソクは朝早く行うので 차례(チャレ:茶礼)という。命日のゼサは基本的に3代まで遡って行うが、最近ではクリスチャンが増え、ゼサを行わない家庭も増えつつある。

ソルの料理の中で必ず用意するのが 떡국(トックッ)である。떡(トック)というのはお餅を意味し、국(クック)というのはスープをさす。日本のお雑煮のようにお餅がベースとなるスープであるが、トックッのお餅はもち米ではなく、普通の米で作ったものである。お餅の原型は20cm位の長い棒のような形であるが、スープには丸くスライスして入れるのが一般的である。作り方は地方・家庭によって異なっており、餃子を入れて作るところもある。子どもに歳を聞く時“トックッを何杯食べたの？”と聞く場合がある。この質問は、韓国人であれば誰もがソルにトックッを食べるとい生活習慣があることを含意しているといえるだろう。

最近日本の韓国料理専門店でも食べられるようになった 잡채(ジャプチュエ)やチジミもソルの料理の一つである。

チャレが済んだら、両親や親戚、そして近所の年配の方に新年の挨拶を行う。それが 세배(セベ:歳拜)である。



両親に 세배(セベ)をする子ども

セベが終わると、目上の方は目下の人に「年中を通して福が訪れるように」という意味を持つ言葉を交わし、大人にはお酒と食べ物を用意し、子どもにはお菓子やお年玉を渡す。子どもにお年玉を渡すのは、幼い頃から貯蓄する習慣を身に付けさせるという意味が込められているそうである。

チャレとセベが終わった後、家族そろって **성묘** (ソンミョ：墓参り) をするのが慣例である。ソルの墓参りには、新しく迎える年にも祖先が見守ってくれることを願う子孫の気持ちが含まれている。

ソルの代表的な伝統遊びには、**연날리기** (ヨンナリギ：凧揚げ)、**꽃놀이** (ユンノリ) などがある。凧揚げは日本とあまり変わらないが、韓国の凧には真ん中に丸く穴を開けるものと開けないものがある。凧を揚げる際には‘送灰迎福’という文字を書いて、病気や事故、凶作は遠ざかり、福が訪れることを願う。韓国で凧揚げが民衆に広まったのは朝鮮時代である。ユンノリは長さ20cm位の丸い木を半分に分けたものを4つ用意して、出発点から目的地まで先に到着するチームが勝つというゲームである。



꽃놀이 (ユンノリ)

大勢の人数と一緒に遊べる利点があり、家族や親戚が集まってやるのが普通である。

お盆 - 何時間もかかる韓国の墓参り

陰暦の8月15日である **추석** (チュソク：お盆 - 他に **한가위** 〈ハンガウィ〉、**중추절** 〈ジュンチュジョル、仲秋節〉ともいう) は、ソルとともに韓国でもっとも重視される祝祭日である。陰暦で数えるので毎年違う日になるが、だいたい9月下旬から10月上旬になる。この時期になると、新米と旬の果物の出荷が始まるので、農村社会であった昔は1年間の収穫の喜びと祖先への感謝の気持ちを込めてチャレを行った。こういう慣習が現在まで根強く残っているのである。



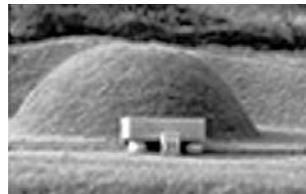
송편 (ソンピョン)

チュソクの由来は正確ではないが、新羅時代の行事が変わって現代のようなものになったという説が有力である。チュソクの前日に

は親戚が集まり、新米でお餅を作る。お餅は **송편** (ソンピョン) というもので、半月の形で作るのが一般的ではあるが、地方によって少しずつ異なり、北の方は大きく、ソウルは小さく作る傾向がある。ソンピョンを蒸すときは松の葉を敷いて香りをたたく。？

チュソクのチャレには、ソンピョンと新米で炊いたご飯、その年に収穫した果物などを用意し、儀式を行う。これは1年間祖先が見守ってくれたことに対する感謝の気持ちの現れでもある。

チャレが終わると、お正月と同様、墓参りに行く。韓国の墓は一般的に土葬であり、小さな岡のような形をしている。墓の周り



韓国の墓

には碑石を置く。墓を作る時は、昔から風水にしたがってよい場所を選んだ。その理由は、祖先の墓の位置が子孫の繁栄に影響を与えると信じたからである。



墓参り

チュソクの前は必ず

墓の周りの草むしりをするが、それを祖先に対する子孫の道理であると考えている。しかし、最近では墓が都会から離れている場合が多いので、当日に墓参りと一緒に行くケースが増えている。日本の場合は家族の墓であるが、韓国は個人の墓なので、墓参りをするためにあちこちに回らなくてはならず、何時間もかかるのが普通である。政府は、個人の墓の面積が増えていることから、火葬を推奨し、納骨堂の設置を勧めている。しかし、身近な場所に葬ることを避ける韓国人の情緒には合わず、納骨堂の設置をめぐるのは地域住民との葛藤が絶えない。

以上のような伝統行事には祖先と家族の融合を重んじる韓国人の考えが潜んでいるといえるだろう。(財)守屋留学生交流協会第23回奨学生 鄭榮美)